

没後 100 年特別企画  
〈欧米の 19 世紀末を活写する〉

# オスカー・ワイルド事典



— イギリス世紀末百科 —  
*Encyclopaedia of Oscar Wilde*

(税込定価 7,875 円)

山田 勝 編 / 日本ワイルド協会 協力  
編集顧問: 西村孝次 /  
Merlin Holland (grandson of O.Wilde)  
編集委員: 青柳晃一 / 荒井良雄 / 石崎 等 /  
井村君江 / 川崎淳之助 / 河内恵子 / 河村  
錠一郎 / 佐々木隆 / 佐藤 喬 / 玉井 暉 /  
富士川 義之 / 山田 勝 / John Lawlor

19 世紀末を生きたくダンディズムの巨匠オスカー・ワイルド。  
多彩な執筆陣で没後 100 年を記念する画期的な大型企画。  
広範囲な項目で時代と作家を読む知的宝典。

20世紀 人名 用語 キー 事典 | 日英 故事ことわざ辞典  
成句 ワード

A・ラス、S・コール共著 / 樋口・田中・山本共訳 | 池田彌三郎、D・キーン監修 / 常名幹二郎編

古典・聖書・文学基礎知識事典 | 貸 rome 小説主義事典

A・ラス、D・キレミジアン共著 / 松島・塩谷他訳 | 松島正一 著

ギリシア ローマ 神話図詳事典 | 英米文学エピソード事典

水之江有一 編著 | R.ヘンドリックソン著 / 横山徳爾訳

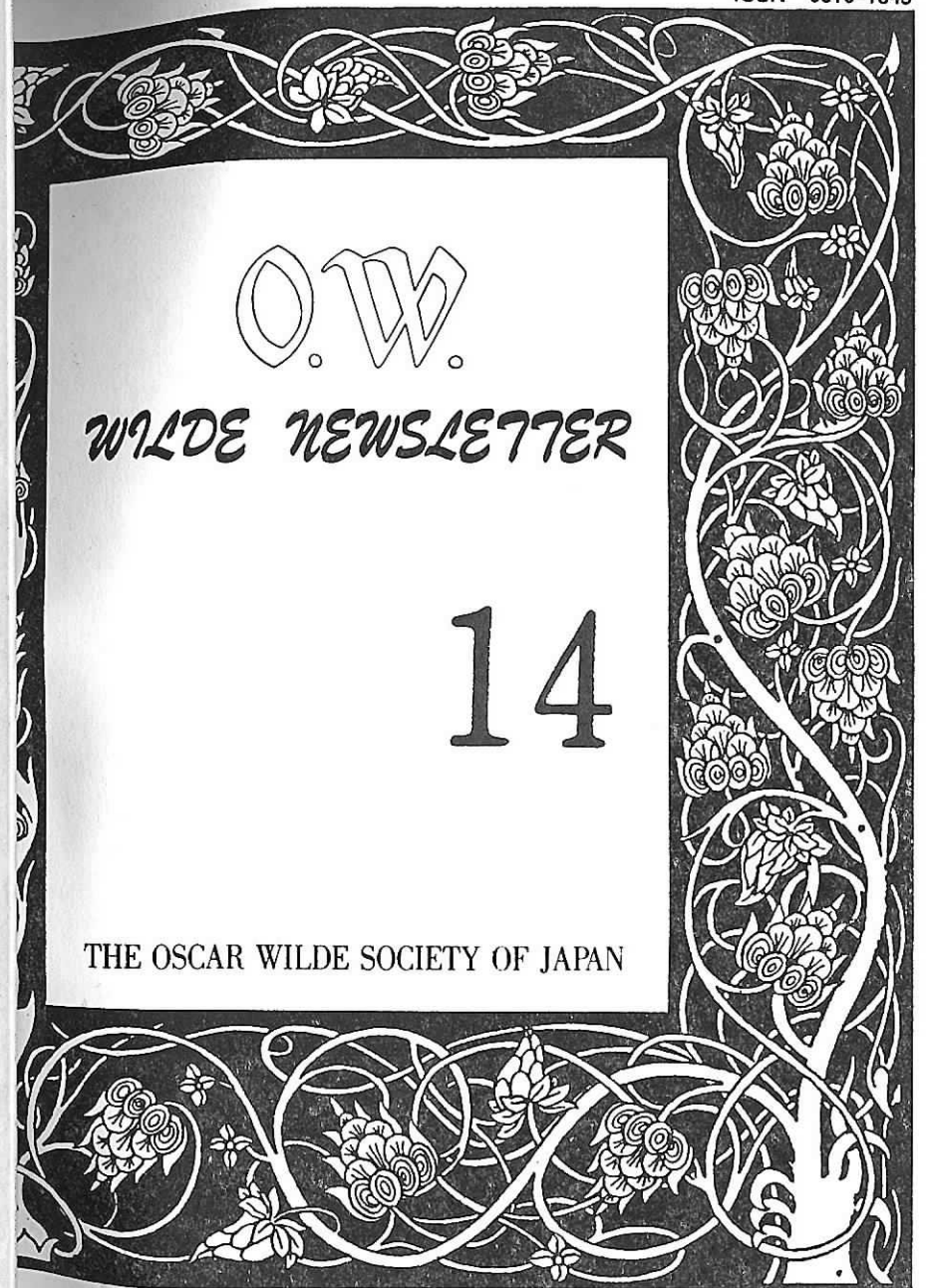
ロングマン英語引用句辞典 | イギリス文学小事典

G. F. ラム編集 / 横山徳爾訳編 | 深沢 俊・塚野千晶 共編著

アメリカ ポップカルチャー 事典 | 世界大惨事事典

ショーン・ホリー著 / 武藤脩二他訳 | フレクスナー著 / 稲積包昭他共訳

〒113 東京都文京区本駒込 3-32-4 北星堂書店 電話 03-3827-0511



---

## 巻 頭 言

山 田 勝  
(日本ワイルド協会会長)

最近の傾向であるが、どこの大学でも文学部英文科の人気は低下している。これも時代の流れだろう。仕方のないことだが、重要な問題にもなっている。学生数の低下ならびに英文学離れが、そのまま英文学研究家の就職難につながってしまったことだ。さらに大学院を持つ大学が増している。これも就職競争を激化させることになった。今後もこうした苦境が続くであろう。

しかし、こうした社会的状況のもとで、考えておかねばならないことがある。英米を相手に戦争していた頃にも、英文学を志す学生がかなり存在したことだ。社会状況は現在よりもはるかに厳しかった筈だ。それにもかかわらず、彼らは英文学を愛していたのである。

就職状況が良く、自分の書いたものが他人に読まれることに越したことはない。しかし文学を専攻するという行為は、実利主義に背を向けることではなかったのだろうか。文学をする、という行為は明かに趣味の世界に帰属するものである。換言すれば、実益とは無関係な歓喜の中に入ることになるだろう。

人間が低レベルな生活をしている限り、文学は無用の学問である。コンピューターを中心とした文明の進歩の著しい現代ではあるが、視線を少し変化させれば、知的レベルの低い時代であることも確かだ。現代はその意味でワイルドの生きた時代と根本的に一致している。ワイルドが「芸術は無用のものである」と、社会に挑戦状を叩きつけたように、文学研究に従事する者は「開きなおり」が必要なのだ。挑戦状を叩きつける勇気のないものは、マゾヒスティックな生活を選ぶことだろう。「どうせ、文学なんてものは役に立ちません。私が好きでやっていることにすぎませんから」といった具合にである。

開きなおって、純粋に自分の趣味をつらぬくのは崇高なことである。崇高の意識が生じた瞬間、社会への「軽蔑の念」が芽生えることになる。軽蔑の念の会得が、マゾヒズムの心境が、サディスティックなものに変貌することになる。ワイルドの抱いた「崇高のダンディズム」は、愚劣なる社会への軽蔑の念から生まれたことは言うまでもない。

自己の崇高性の認識は、自己の美化・芸術化に通じる。この基本姿勢を私たちは決して見失ってはいけないだろう。ここで付言しておかねばならないのは、崇高性の認識と高慢は確実に異種のものであるということだ。文学芸術に従事する者にとっては、高慢は許されるべきではない。それはワイルド流に言うならば、「この世の中に俗悪以上に悪いこと

---

がある。それは高慢だ」ということになろう。

日本ワイルド協会員は、それぞれの個性に基いた崇高の念を意識してもらえれば、と願っている。



## 目 次

巻 頭 言	山 田 勝	1
日本ワイルド協会創立20周年記念から		
記 念 講 演「Degeneration and / or Regeneration」	河 内 恵 子	4
第18回夏期セミナー要旨		
講 演『社会主義の下における人間の魂』をめぐって—— ワイルドの個人主義と批評主義——	伊 藤 勲	6
研 究 発 表「The picture of Dorian Gray のラスト・ シーンをめぐって」	浦 部 尚 志	9
シンポジウム「The Decay of Lying」		
『嘘の衰退』の嘘について	木 村 克 彦	11
「ワイルドの芸術過剰防衛——『嘘言の衰退』 における自然と芸術——」	岩 永 弘 人	13
「The Decay of Lying における Wilde の “imagination”」	大 曲 陽 子	15
第21回ワイルド学会要旨		
講 演「ワイルドにおけるケルトの要素—— The Celtic Elements in Oscar Wilde——」	井 村 君 江	17
研 究 発 表「ワイルドとベケット—— The Importance of Doing Nothing ——」	折 田 尊 子	20
海 外 便 り	井 村 君 江	22
ワイルド研究会報告	酒 井 敏 編	25
ワイルド書誌・講演・研究発表	千 葉 剛・佐々木 隆	29
ワイルド情報	千 葉 剛・佐々木 隆	30
夏期セミナー・秋期大会記録		32
日本ワイルド協会規約		34
協会からのお知らせ		35
編 集 後 記	木 村 克 彦	